

安全データシート

作成日: 2022年8月29日

1. 製品及び会社情報	
化学品の名称	ステアリン酸マグネシウム
推奨用途	試験研究用
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	CC0201
2. 危険有害性の要約	
GHS分類	
健康に対する有害性	皮膚腐食性・刺激性: 区分3 眼に対する重篤な損傷・目刺激性: 区分2B
ラベル要素	
絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	警告
危険有害性情報	軽度の皮膚刺激 眼刺激
注意書き	【安全対策】 取扱い後は手などをよく洗うこと。 【応急措置】 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 皮膚に付着した場合、水で数分間注意深く洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。 【保管】 施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。
3. 組成、成分情報	
化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	ステアリン酸マグネシウム
化学式	approx.Mg(C ₁₈ H ₃₅ O ₂) ₂
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN: 557-04-0
含有量	Mgとして4~5%
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	(2)-611
その他	HSコード: 2915.70
4. 応急措置	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	[吸入した場合]咳 [飲み込んだ場合]吐き気、嘔吐、下痢を伴う胃痛
応急処置をするものの保護	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	該当情報なし。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	ドライケミカル、二酸化炭素、水、泡消火薬剤 大規模な火災の場合は、泡消火薬剤または噴霧スプレーで大量の水をまく。
使ってはならない消火剤	該当情報なし。
特有の危険有害性	加熱・燃焼時、刺激的な煙や有毒なガスを生じる。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 保護具を着用し、風上から消火に当たる。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材	河川中に排出され、環境へ影響を起さないよう注意する。 危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体換気等)	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	火気注意 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 眼、皮膚との接触を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 熱、火花、裸火、強酸化剤、強酸との接触を避ける。
接触回避	
保管	
安全な保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。—禁煙。 酸化剤から離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。 ポリエチレン
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。 空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。
保護具	
呼吸器の保護具	ほとんどの条件で呼吸保護は必要ない。しかし、埃っぽい雰囲気では認可ダスト呼吸器を使用する。
手の保護具	適切な手袋を着用すること。
目の保護具	適切な保護メガネを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	粉末
色	白色
臭い	無臭
融点/凝固点	88°C(融点)
沸点又は初留点及び沸点範囲	該当情報なし
燃焼性	該当情報なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし
引火点	可燃性であるが引火点なし
自然発火温度	該当情報なし
分解温度	該当情報なし
pH	該当情報なし
動粘性率(粘度)	該当情報なし
溶解度	3mg/100mL(15°C) 熱したアルコールに可溶。エタノール、アルコールには非常にわずかではあるが溶ける。水溶解度:0.003%(15°C)
n-オクタノール/水分配係数	logPow=14.34
蒸気圧	8.69×10^{-10} mPa(25°C)
密度及び/又は相対密度	1.02g/cm ³
相対ガス密度	該当情報なし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常の温度、圧力下では安定である。 乾燥状態では、攪拌、空気輸送、注入などにより静電気を帯びることがあるが加熱すると分解し、刺激性的な煙や有毒な酸化マグネシウムのヒュームを生じる。
危険有害反応可能性	強酸化剤、強酸と反応する。
避けるべき条件	該当情報なし。
混触危険物質	該当情報なし。
危険有害な分解生成物	—酸化炭素、二酸化炭素、酸化マグネシウム
11. 有害性情報	
急性毒性	経口: データ不足のため分類できない。 経皮: データ不足のため分類できない。 吸入: データ不足のため分類できない。 (粉塵)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ヒトで皮膚刺激性の可能性が記載されている 3) ことに基づき、区分3とした。ヒトで皮膚刺激性の可能性が記載されている (ACGIH(2001)) ことに基づき、区分3とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ヒトで眼刺激性の可能性が記載されている(ACGIH(2001))ことに基づき、区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器: データ不足のため分類できない。 皮膚: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	in vivoの変異原性試験結果がなく、in vitro試験で複数指標に対する陽性結果がないことに基づき、分類できないとした。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: 該当情報なし(急性) 長期: 該当情報なし(慢性)
残留性・分解性	該当情報なし
生体蓄積性	該当情報なし
土壌中の移動性	該当情報なし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	—
品名(国連輸送名)	—
国連分類	—
容器等級	—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	—
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
消防法	危険物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[ステアリン酸マグネシウム]危険性又は有害性を調査すべき物[ステアリン酸マグネシウム]
16. その他の情報	
参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP) 記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。